

萬國略說

上

ル 2  
3038  
1



東

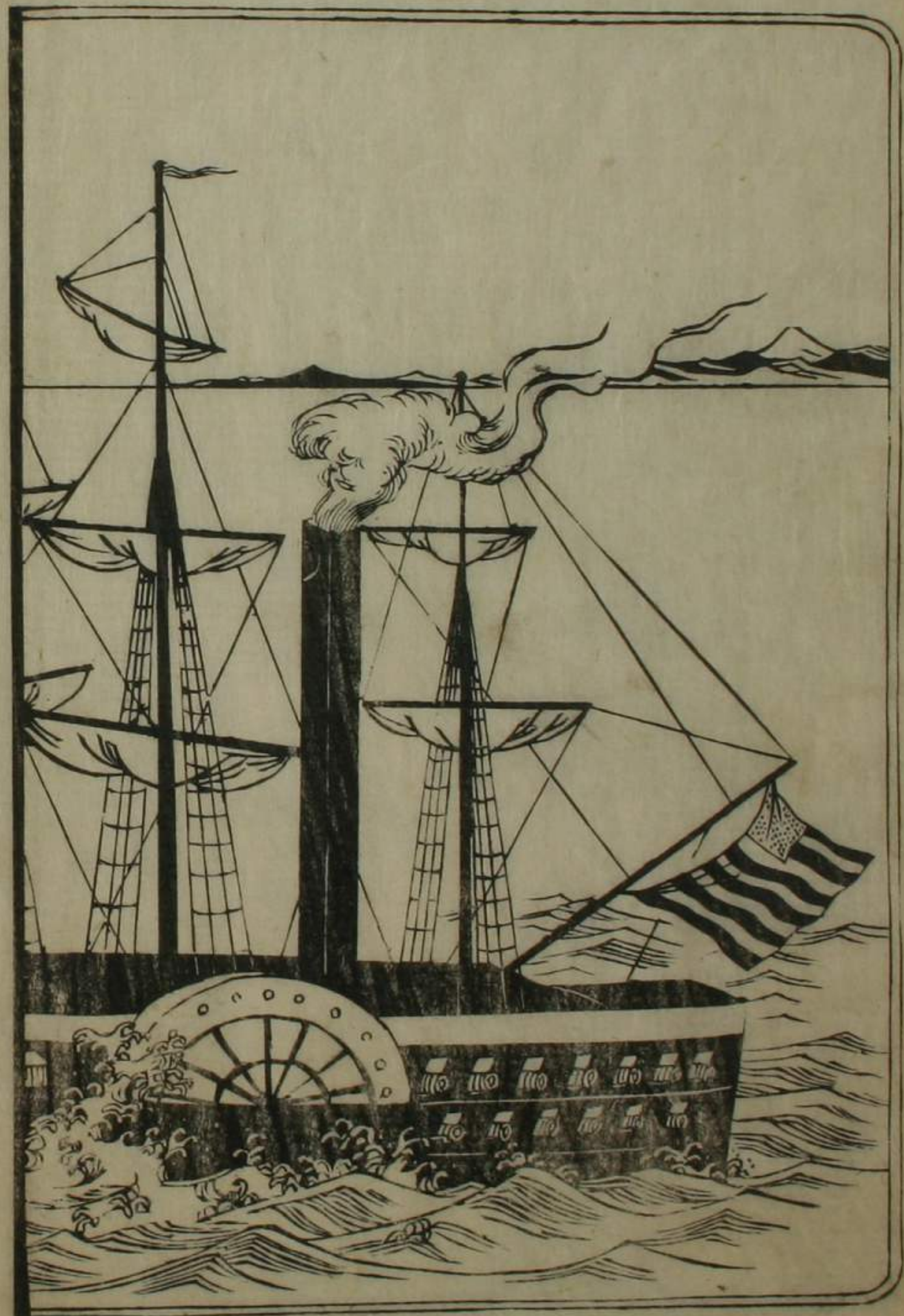
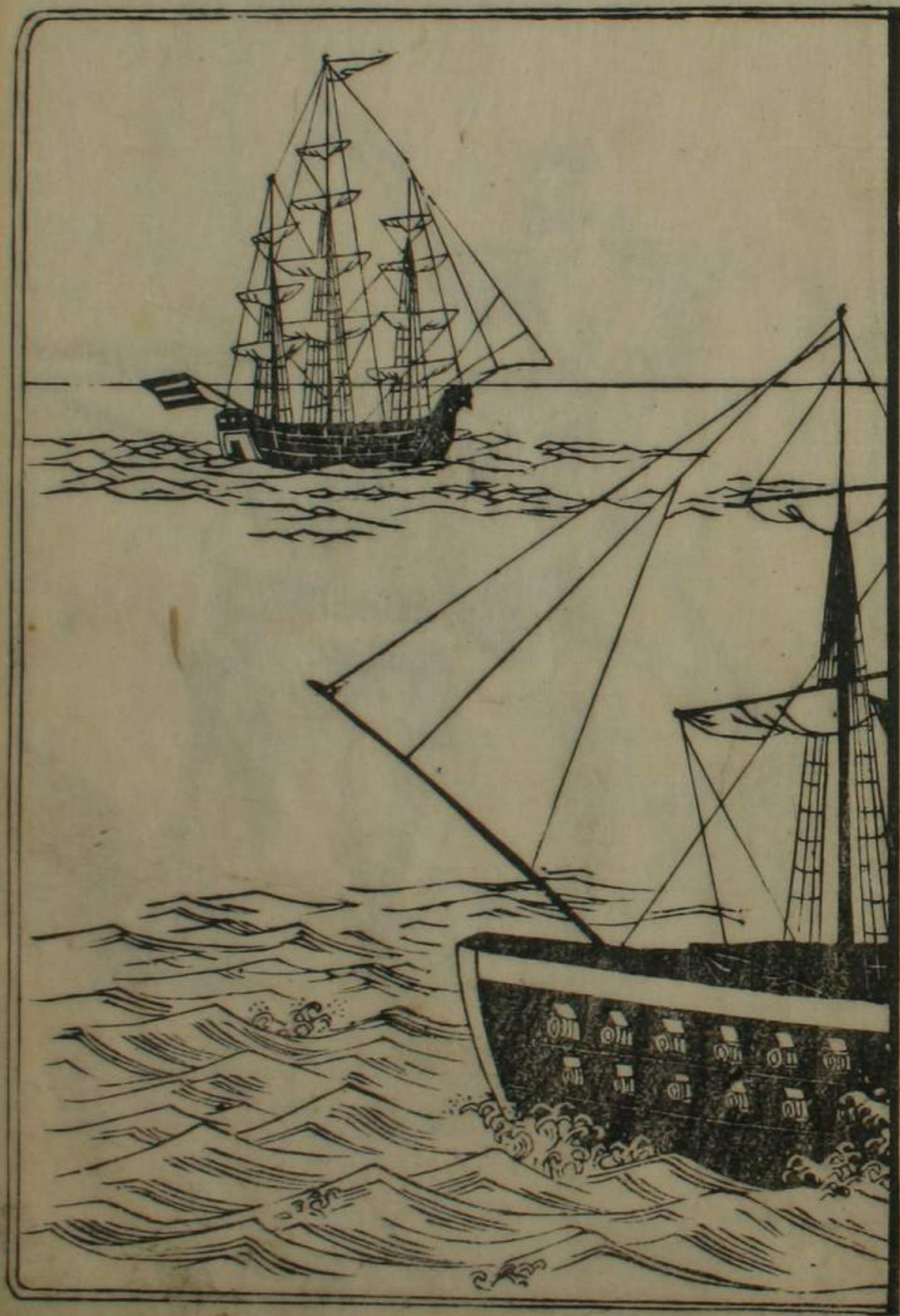
書

卷之二

國朝

全







地球全圖畧説

東都

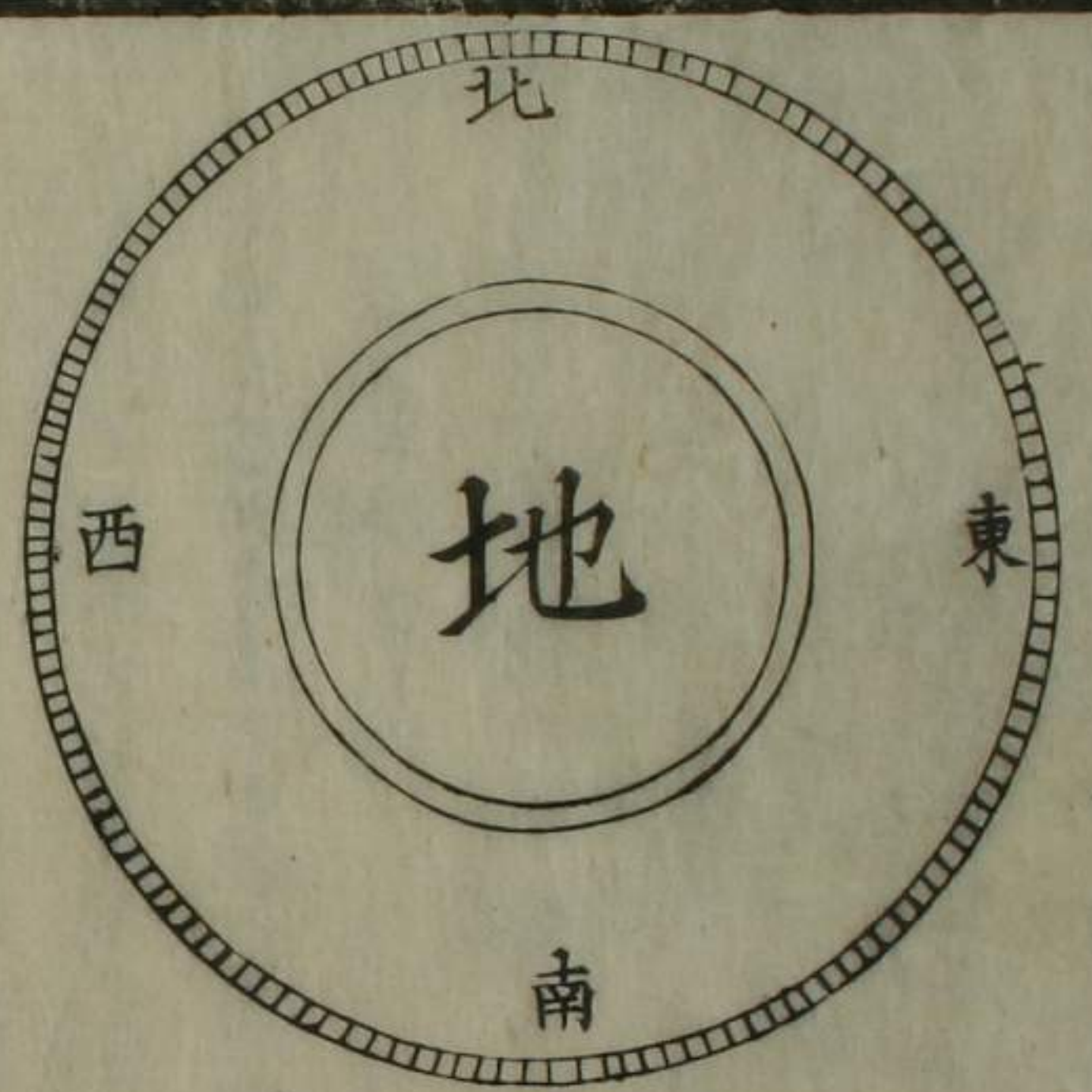
江漢司馬峻著

余繪事の餘暇和蘭船一乘りてその奇器畫圖の法  
 と摹刻す嘗彼邦銅版の法と考索し已不徒圖と  
 製して人示を逆付を法と次で筆玉の圖と製せん  
 むひ彼西刻の圖と好て是と換寫し銅版不刻を順  
 圖かきより従来我 函の人多ハ其地總界のり  
 知者すくむ 藝ハ人々此圖と見て筆玉の大なるり  
 志ゆんと歎す其精詳の如き知識者の校訂と俟りのり

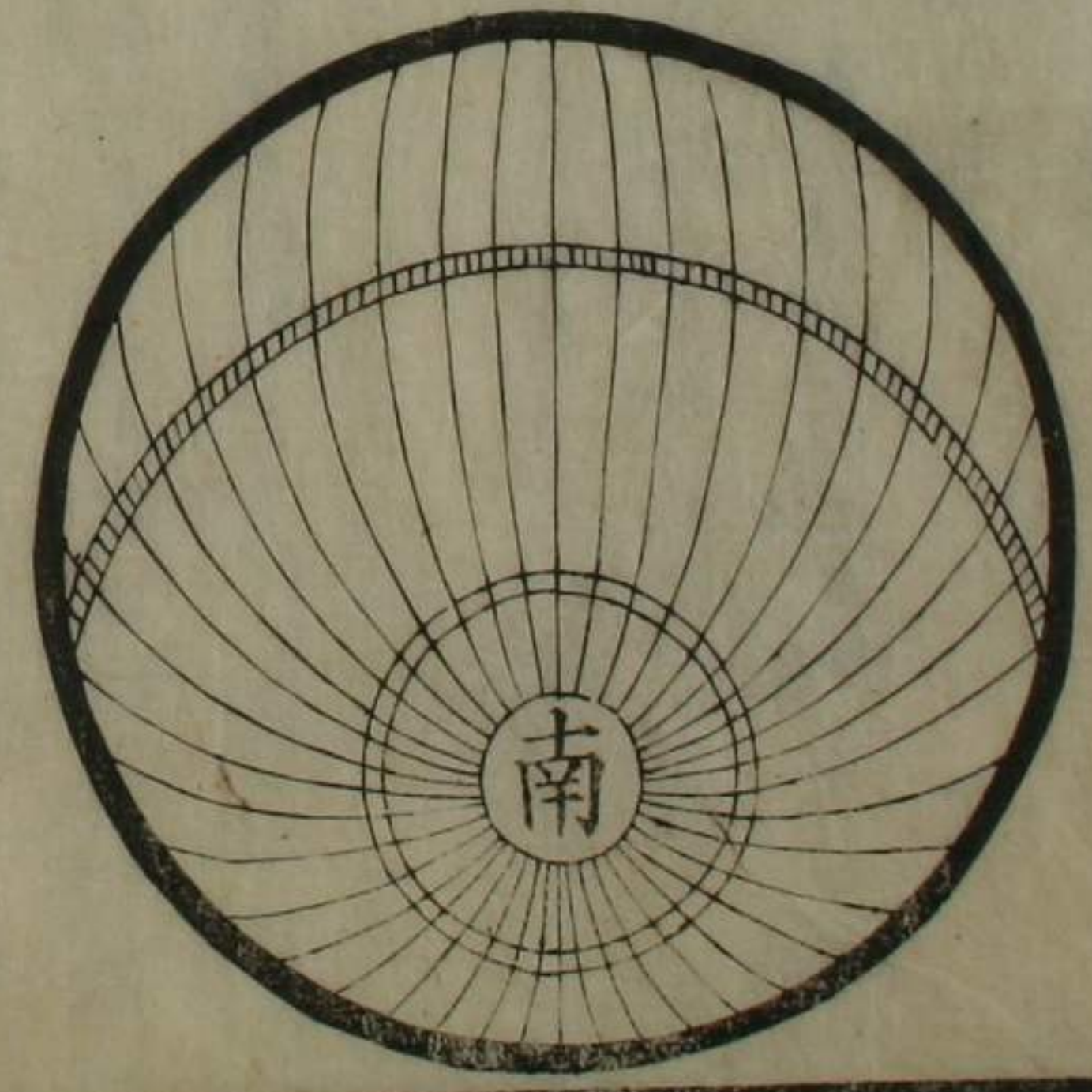


地球と半と  
 分て二圖とを  
 五大海の  
 畧圖

表



地球

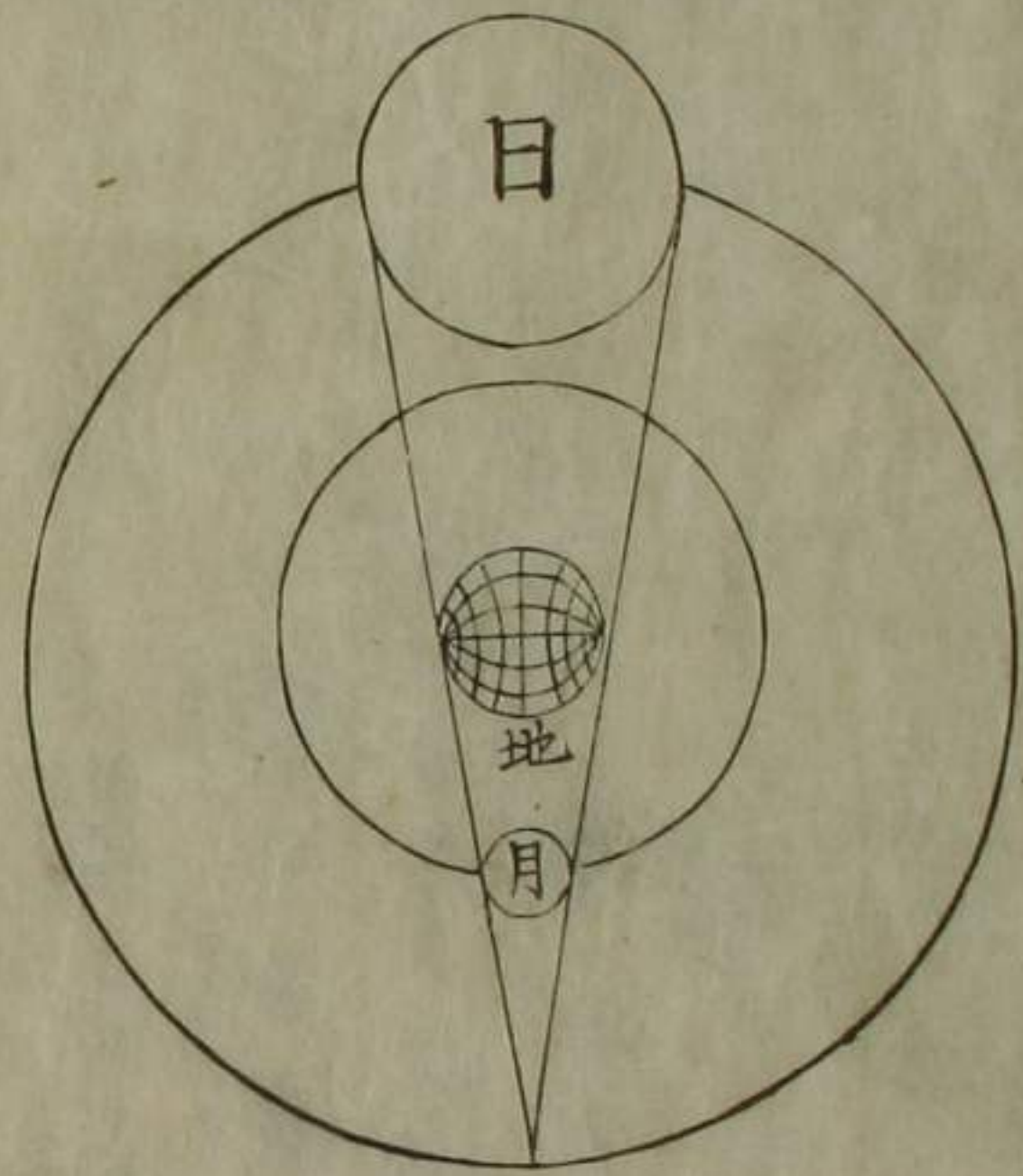


二

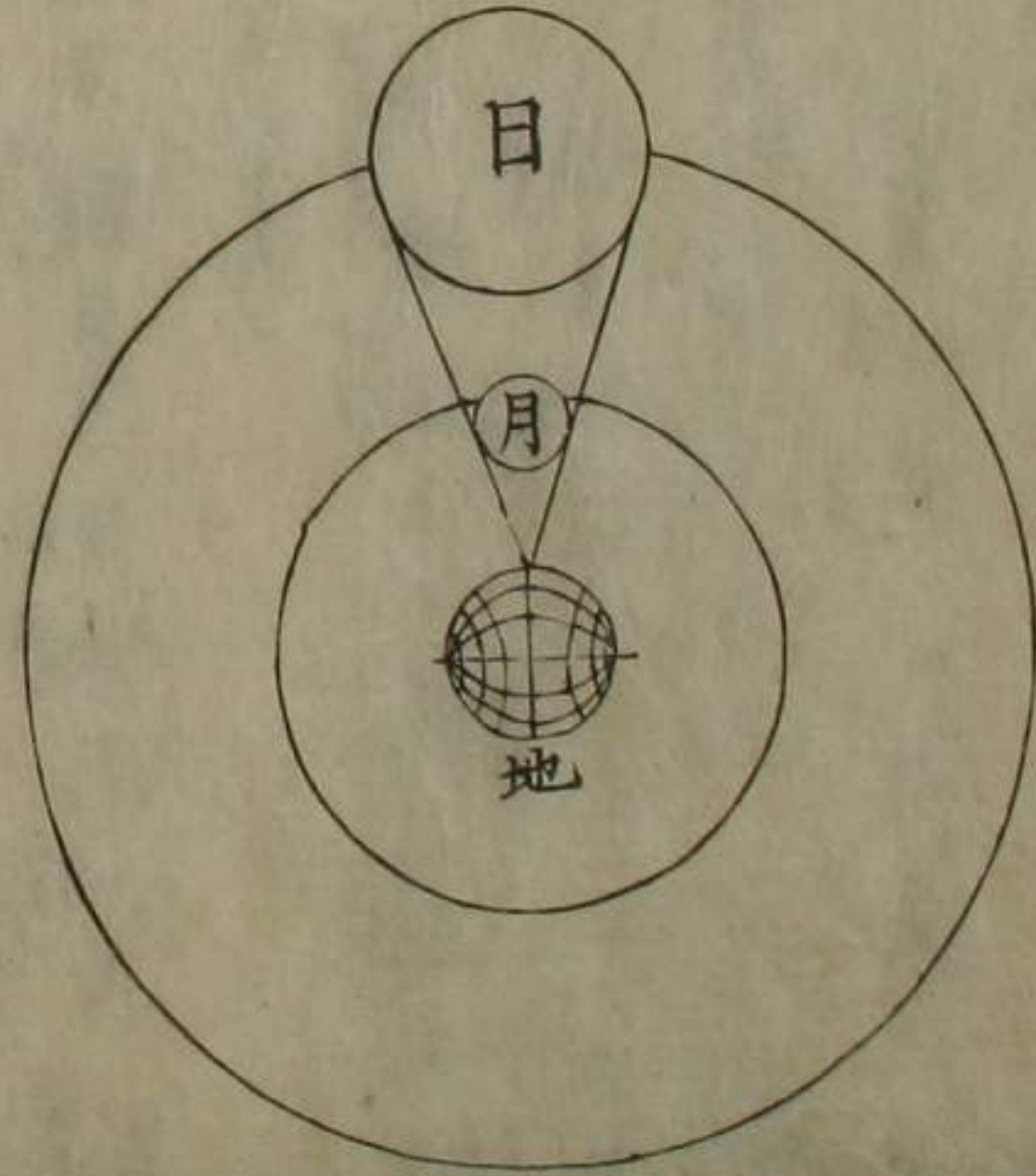




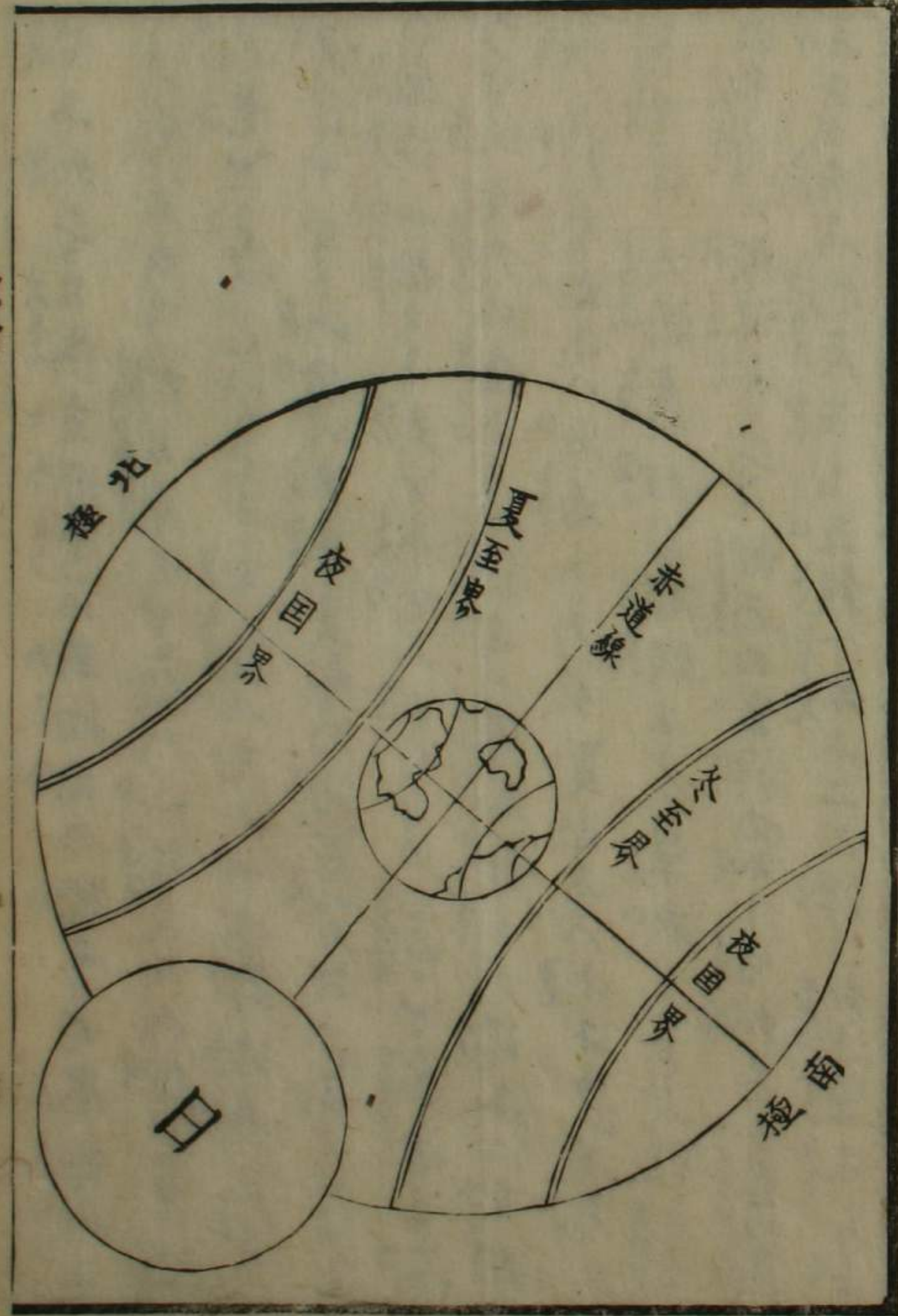
月蝕



日蝕



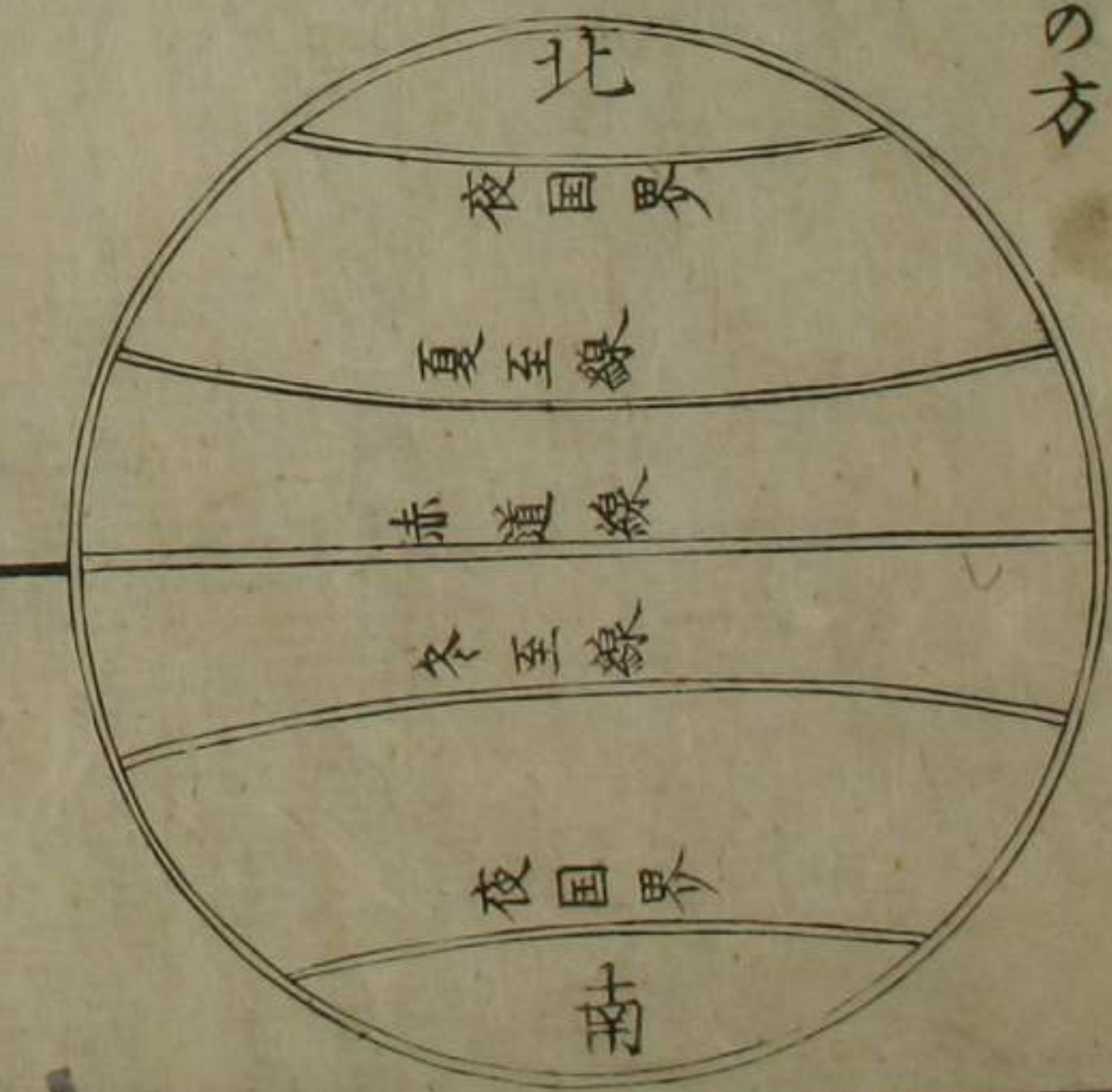
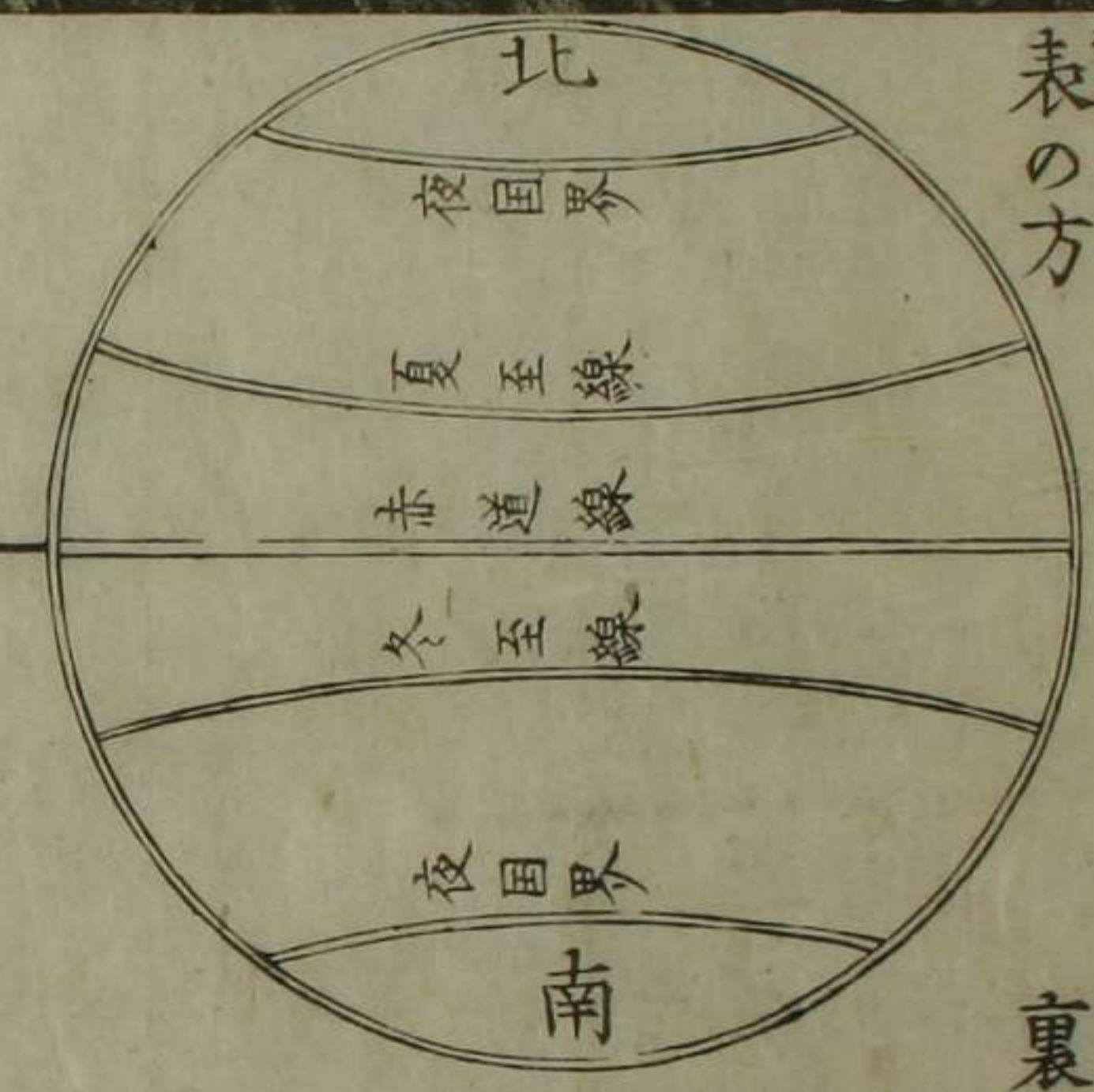
月を一つの水晶の玉の如くみてむらりたる所のあり  
 日のひかりと受け映し照してひかりと見え月ハ地ハ  
 あくくしてぬらるといふとも並ふ莫乃とゆふた  
 一月ふ十二度々莫乃の南ふりつるなり或ハ六度  
 莫乃の北ふりつるなり或ハ六度莫乃の南ふりつるなり  
 北緯といふ日と同トとところをぬらるは北緯といふ  
 かさなりとるとは日蝕するなりと日と月のありと  
 不地とへごと月地の上光ふ塞らきて月の光  
 とりしむるなり月蝕するなり 北緯といふところの  
 とりてさとり 知べし





表の方

裏の方



此赤乃より南小ふらつるの夜国界と云ふとあるべし

アメリカ大洲も此日本の裏にあつり方よみて去の  
 去の夜を暖もあつての如く赤道垂下の常不熱  
 赤乃南小ふらつての漸く寒し此徳ふハエウロッパ  
 徳州の人波て開く多し

日本国のときハ赤乃と三十五六度  
 去の地ふして寒暖時ふあさぐひて  
 其より支那の南系々日本の肥  
 州と同ト小系ハ奥州搬夷ふ  
 かの如くふしてエウロッパ徳州の寒暖此  
 度の線と推てあるべし

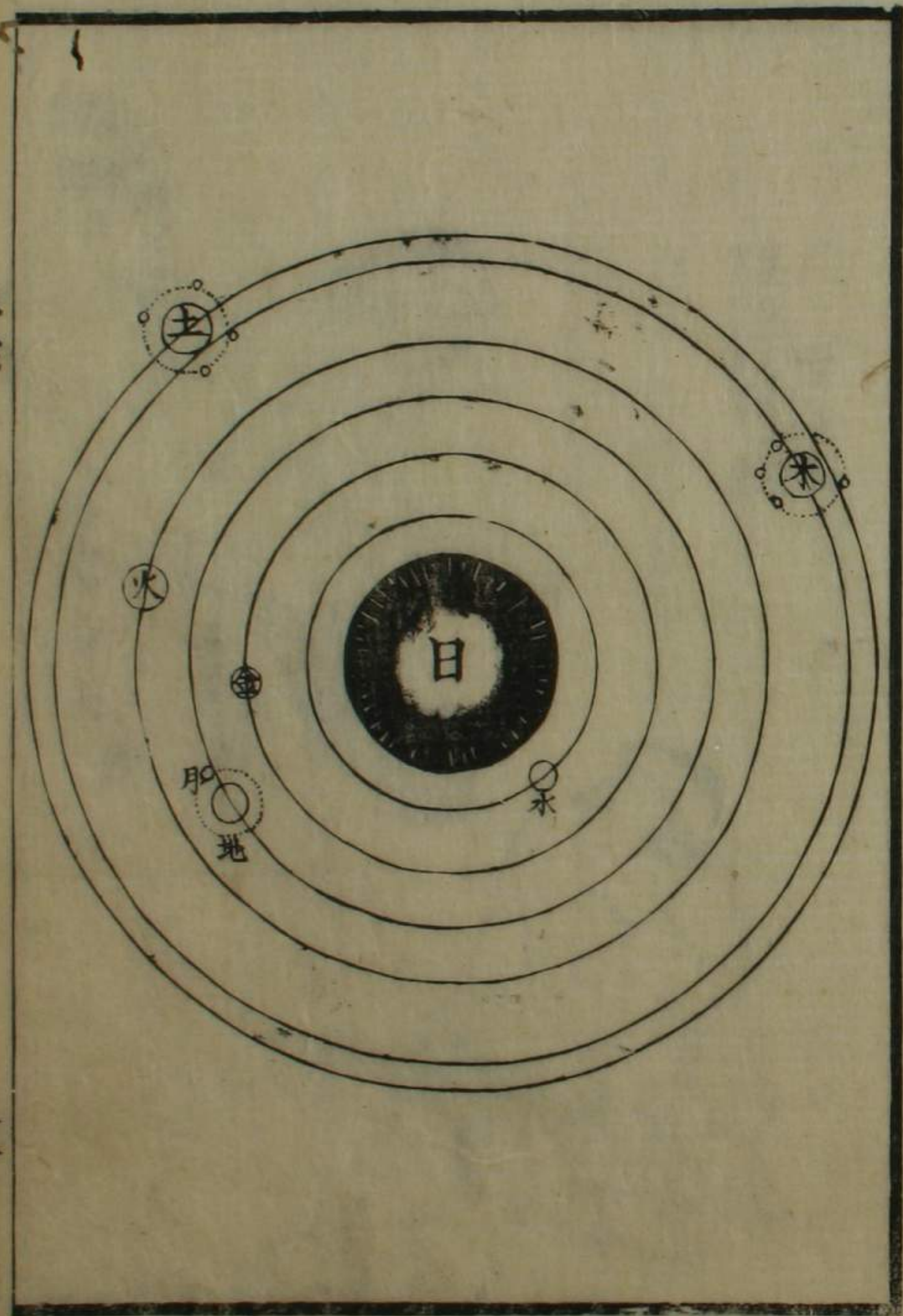


此界より北の方日輪の及ぶるの地にして秋  
 玉氷海といふ春分のあるより夏天の如く夜  
 玉ふり下りて晝と夜をまのとき不漸く日光  
 と終つる終つる終つる終つる終つる終つる  
 周轉秋分のとち日暮ふして日地不入を  
 玉の北の秋の玉の別の如く表分不あるまで  
 表とるは玉をぐるハエウロッパの徳州の人  
 ひろきて緯線として産業とをウニコイルも  
 別は海の産より極下の地ふしてまで  
 極の方よりこと同ト

○エウロッパ 蘇州 モスコビヤ。ホログ子。アルマダ子。フランス。  
 フランダ。イギリス。等の地は冬月多し、夏月すくなく  
 左の米穀と産物をナトリヤ。トルコ。の地のおとまを  
 日本のお米と産物と同トその地の西の地中へ出ておハ  
 大湖と東として甚多の地ありて世界の宝を  
 必ふありと誇とあり 總してエウロッパの諸州を  
 必へて交易とありて第一の必勢とすまば  
 まづ天文地理とありて必ふきめりつと必勢とせり  
 且も海船を造るのさあられ量地の測りつとも  
 勝り彼必の書必せし。スピゲル。といへる書あり

セーの海よりスピゲルへ鏡といへる言ふしてするはち  
 海鏡といへる言ふて蓋必へ船と乗ると委し  
 北へ南へ極の高低と海中の深淺とありつりつり  
 必と書しありあり書りて必ふありつりつり  
 極の南北の極極ふして動らざる左必の方の徳州へ渡  
 りつりつり極の高低とありて地とありり里教とありり  
 とりつて南必とありて天の度とありて地の度と定り  
 地の度教とさめて而後必の方位と海陸の  
 必と書しと地と必ふりつりつり  
 とへありぬまらる必と書し天地の鏡の地は天の海中





本ありて日月天とゆへり地もまことたふ旋の旋ふて  
 そありて教と窮さうまこと西洋の人の説ありて  
 正中ありて地天とゆへり月も一ツの世界ふして  
 地と中とてめぐり五星も又皆一ツの地ありて  
 説ありて全象と答ふ制にしてユレレと名づけたり  
 説のボイスといへる人の書中ふありて載り余が  
 如く松系氏なる人は器と新制せんると企て説を  
 りるれば窮理ふと利人ふあらずんば虚妄の説と  
 たふ出を固い日天の正中ふありて地月及五星の  
 示す 日地球三倍あり全圖の姿とて説の實なる  
 十一



熱國の人物と圖を

コルマンの人物

赤道並下の人は皆如此



X

おまゝにそのふこの言儀各異なり  
 左にそのふの云はれざるなり  
 想て著玉の書中  
 奇言精説あり  
 べれども  
 俟ゆるり  
 あり  
 ず  
 唯  
 畫  
 圖  
 の  
 記  
 と  
 して  
 推  
 量  
 する  
 の  
 こと

茲に五大洲の方位と玉の風去と沃との人ども  
 豈に貴族の一分と徳の先不ジヨウガラヒイとの人ども  
 翻譯する龍橋侯赤西國説の選あり  
 此ら月池公著  
 國説と編集す且を瑞と聞して率本之

○歐羅巴大洲中  
 入尔馬尼亞とドイツランドとの間の方々  
 山あり  
 木あり  
 窟あり  
 里あり  
 接あり  
 ナウ、河あり  
 大



地志

七四

新亞と臨南ハ入ル馬尼亜より古ハ十七州あり今ハ七州と云  
 邦ランドヨイレキドヨリスランドヨイセルゲルウニゲンボラ  
 ンドゲルランドより小玉ありて日本の九州北比ベ一船と巧小  
 ちて世界各國ハ交易とせず友ハ志願アリ於城とテム  
 ステルといふ

○伊斯把泥亜ハヒスカ海西ハ波爾杜瓦南ハキブラルの岬と  
 隣て亞弗利加の大洲ヨウダより東ハ地中海と臨むヨル  
 セイヒカ島ハ向ハ此島に十夜ハありて一月長一といふ由  
 南岸の法玉腹去ハ一五穀と生ハ金銀を多一有ハ船  
 と法邦ハ一長民の法と祝知良智の者と先とて教

と施一その法と開とて多ハ勢ハあまふりて亞墨利加  
 及法洲ハ属玉多一亞弗利加大洲のうちハルバリヤの地ハ  
 多く属玉あり 伊斯把泥亜の都城とマトリヤトハ入度大  
 及濂と云ふ

波爾杜瓦此地 伊斯把泥亜の法あり 於城と名づけ  
 里西波亞といふ大をてといふとハ南ハ亞太懶海と  
 臨む 亞弗利加大洲のうち 應帝亞海名及 亞墨利加大  
 洲のうち 銀河の色より 小玉ありて 伯羅西鬼の地ハ  
 交易の法と後玉勢と云ふ

○拂郎西察ハ玉の於城とヨリスといふ 聖於廣大ありて

郭の廻り日本の里徑ありて大里余和蘭不隣をみす及  
 ちて空月多一去地より物お産わき地ハ必人々他不務  
 時計を外奇器と工ひるヲ不ギリスみつ伊斯波泥亞とヘイ  
 レ子イセ山とりつてつき奈ハ「レイン海あり」アル馬泥亞と  
 地を南ハ「蘇亦微及」アル白西山とりつて「意多里亞ふ  
 隣をわの流と隔て」諸入利亞ふ向る  
 ○意多里亞は地ハ「アルス山」とりつてつき死南ハ地中海へ出  
 於城と「ロウマ」といふ又「ヘ子チヤあり」地中流を屬する  
 の「西齊亞」可尔西加及「カルニイン」を余小島多一穀穀及び  
 果子又奇石と産せり

